

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

健診施設におけるデジタルサイネージによる肝炎ウイルス受検の勧奨

研究分担者 井出達也 久留米大学医学部内科学講座、消化器内科部門 准教授

**研究要旨**

【背景】職場健診において、ウイルス肝炎検査の受検率は低く、受検率上昇をめざし、協会けんぽでは、リーフレットなどを作成し受検勧奨をしている。昨年ソフトバンクロボティクスのペッパー君を設置し、ウイルス肝炎検査の受検を勧奨した。その際に、デジタルサイネージ(テレビモニター)も同時に設置したが、デジタルサイネージの方が、受検率が高かった(昨年度報告済み)。そこでデジタルサイネージを拡充することとした。【方法】福岡県久留米市の聖マリアヘルスケアセンターに、デジタルサイネージをさらにもう一台購入、設置し、ウイルス肝炎に関するコンテンツの変更も加えた。【結果】現在デジタルサイネージを導入し、コンテンツの制作を行ったところである。来年度に結果を報告する予定である。【結語】健診センターにデジタルサイネージを設置することができた。今後検証していく予定である。

**A. 研究目的**

職場健診において、ウイルス肝炎検査項目が必須になっていない健診においては、その受検率は低く、通常1%前後とされ、受検率上昇が課題である。中小企業の保険者である協会けんぽなどでは、健診の案内と一緒にリーフレットなどを同封し受検勧奨をしている。昨年ソフトバンクロボティクスのペッパー君を設置し、ウイルス肝炎検査の受検を勧奨し、一定の効果を得たが、その際、同時に設置したデジタルサイネージの方が、受検率が高かった。そこで、今回デジタルサイネージを拡充し、肝炎ウイルス受検率の向上をめざした。

**B. 研究方法**

福岡県久留米市の聖マリア病院ヘルスケアセンターに、さらに大きな画面のデジタルサイネージをもう一台追加設置し、ウイ

ルス肝炎に関するコンテンツを導入することとした。なお設置や勧奨、データ解析は、同病院ヘルスケアセンターの肝炎医療コーディネーターの岡田尚子保健師および福井卓子医師によって行われ、コンテンツは佐賀大学肝疾患センター、江口有一郎、藤岳夕歌によって作成されたものをもとに、岡田尚子保健師および福井卓子医師が追加作成した。

今後同センターの待合室に設置した2台のデジタルサイネージにコンテンツを放映し、検診の合間に見ていただき、受検者に対して、アンケートを行い解析する予定である。この研究は、聖マリア病院内で倫理委員会により承認を受けている。

**C. 研究結果**

デジタルサイネージの設置状況を示す。待合室に2台設置した。(両端の画面に電源

が入っているもの。真ん中のものは通常のテレビ)



次に、デジタルサイネージのコンテンツの概略を提示する。肝炎の一般的知識、費用やこの健診センターですぐできることなどを説明している。



## D. 考察

現在デジタルサイネージを導入し、コンテンツの制作を行ったところである。来年度に結果を報告する予定である。

## E. 結論

健診センターにデジタルサイネージを設

置し、コンテンツを作成することができた。今後検証していく予定である。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

(2021年6月に開催される日本肝臓総会で発表予定)

## G. 知的所有権の取得状況

なし

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

